

〔本朝世事談綺五〕滯杭みはく

滯標みはくしの事也滯は水のふかみ標はしるしの木なり、○中難波に立所始也類聚國史に云難波江に始て滯標を建ると云々、

〔萬葉集十二〕古今相聞往來歌二〕羈旅發思

水思ミヅノシ衝石ウツシ心盡ココロツクシ而念鴨ニモトナシ此間毛ニモトナシ本名夢西ニシキユル所見

〔萬葉集十四〕譬喻歌

等保都安布美伊奈佐保會江乃水乎都久思安禮乎多能米氏安佐麻之物能乎

右一首遠江國歌

〔古今和歌集十二〕寬平御時きさいの宮の歌合の歌

藤原興風

君こふる涙のところにみちぬればみをつくしとぞわれはなりける

〔後撰和歌集十三〕事いできて後に京極御息所につかはしける

もとよしのみこ

わびぬれば今はたおなじ難波なるみをつくししても逢んとぞおもふ

〔忠見集〕身をつくし

吹かせにまかすることもみをつくしまつと知てやさしてきつらん

〔古今和歌六帖三〕みをつくし

かは波もうしほもかゝるみをつくしよするかたなき戀もするかな

〔新撰六帖三〕みをつくし

家良

すみの江の浪に朽行みをつくしふかき頼のまゐるしあらはせ

右大辨入道光俊

人をみなわたすまゐるしのみをつくしふかき江にこそ思ひたてつれ